

～私立中学入試に英語、首都圏で30校以上に～

2015.1.1 朝日新聞

英語を入試に取り入れる私立中学が増えている。模試の実施機関によると、2015年入試で英語を導入するのは、帰国生限定を除いても首都圏だけで少なくとも32校にのぼるといふ。小学校で英語学習が本格化し、今後さらに進むことを見越して導入が加速している。

昨年12月、横浜市の桐蔭学園であった中等教育学校（男子）と中学校（男子部、女子部）の入試説明会では、保護者ら800人が初めて入試科目となる英語の説明に聴き入った。担当教員は、英作文の問題も出ることを説明し、こう締めくくった。「これから大学入試に通用する力とともに英語を使いこなす力をつけていくことが重要」。英語は2月2日の午後入試にだけ選択科目として導入し、英検3級レベル（現在の中学卒業程度）の語彙（ごい）や読解力が必要で記述式も出題するという。

「小学生のうちから英語を頑張っているお子さんのニーズに応えたい」と桐蔭学園の山本亨教務部長は言う。説明会に来た神奈川県藤沢市の40代の会社員男性の一家は昨年3月まで約4年間、米国で暮らした。小6の長男の受験を検討中だが、「一般入試でも英語が選べるとチャンスが広がる」と男性は喜ぶ。

背景にあるのは小学校での英語学習の本格化だ。11年度に5、6年生は英語が必修になった。文部科学省は13年12月、授業を3年生からに早め、5年生からは教科とする改革計画を公表した。英会話能力の向上をねらい、18年度からの段階的实施を目指す。

東京都市大付属中（東京都世田谷区）は新たに英語、算数、作文（日本語）の3教科による「グローバル入試」を始める。問題のレベルは英検準2級から2級程度で、筆記のみ。小野正人校長は「英語教育に熱心だったり、親が英語圏出身だったりする家庭からの問い合わせがくるようになった」と関心の高まりを感じているという。

面談時などにも常々お話ししておりますが、この記事でもわかるように英語教育の導入が益々進んできております。おそらく今後5年間での英語教育に対する変化は、これまでの20年、30年に匹敵するのではないかとされておりしております。当校では幼児期（未就学児）には文法よりも「自分の言いたいことを伝える力」を伸ばすということに重点を置いて指導をしております。これにより会話力も向上し、実際に子供たちの会話力は我々の想像を超えるほどのスピードで上達をしております。しかしながら、記事にもありますように「英検準2級から2級程度」となると会話力だけでパスすることは難しくなってきます。そこで当校では4月からの新年度より、小学生文法クラスに読解力・文法力等を更に向上させるべく新プログラムを新たに導入致します。今までの会話力に加えて読む力・文を構成する力を強化していきます。これに会話クラスと一緒に履修することにより更なる会話力の向上を確立していきます。

中学受験を視野に入れている方はもちろん、そうでない場合も英語に対する取り組みが今後加速していくことは間違いありません。英語学習は何より「環境と継続」です。“あの時やっておけば良かった…”と思ってももう取り返しがつきません。英語でアドバンテージを取っておけば、他の学習で差をつけることができ、志望校選定等も更に選択肢が広がります。ぜひ、皆さまも当校で学習を続け、来るべき時に備えておきましょう。